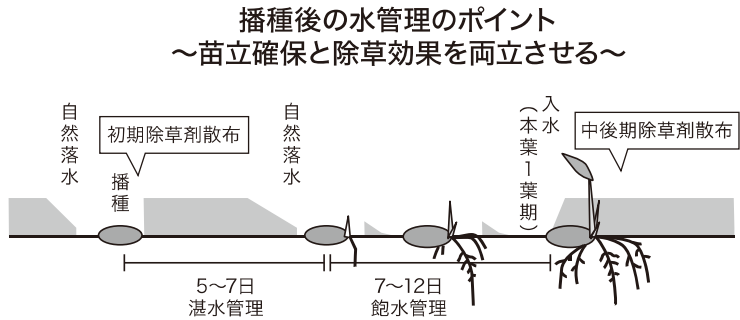


直播てんこもり(鉄コーティング) の栽培ごよみ (JA米生産基準)

収量構成の目安	
収 量 構 成	目 安
m 当 たり 苗 立 数 (㎡当たり苗立数) ^(本)	21 (40～80)
m 当 たり 穂 数 (㎡当たり穂数) ^(本)	136 (450)
平 均 1 穂 粳 数(粒)	65
㎡ 当 たり 粳 数(百粒)	293
登 熟 歩 合(%)	85
玄 米 千 粒 重(g)	22.5
10 a 当 たり 収 量(kg)	560

- 栽培のポイント
- ①均一な苗立ちを確保するため、ほ場の均平に努める
 - ②播種量は乾粳換算で3.0～3.5kg/10aとする
 - ③播種時のほ場の硬さは、種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度(右写真参照)
 - ④播種後5～7日は深水(水深5cm程度)による湛水管理。その後は、イネ本葉1葉期まで飽水管理を行う。ただし、スズメ被害ができれば湛水する
 - ⑤確実な中干しで適切な茎数に誘導する
 - ⑥出穂後20日間の湛水管理の徹底

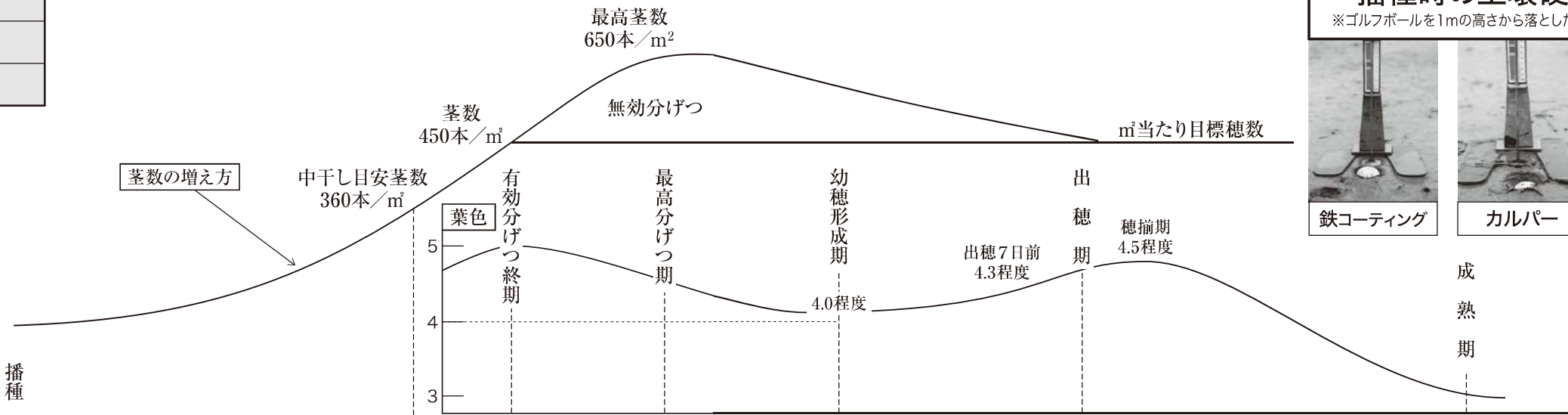


鉄コーティングとカルパーの播種深さ

播種時の土壌硬度の目安

※ゴルフボールを1mの高さから落とした時の土壌の硬さの違い

鉄コーティング カルパー 軟らかすぎ



月 日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
	4/25 4/30	6/18 7/1	7/20 8/11	9/29			
生育期区分	(ほ場および種子の準備)	播種期 出芽・苗立期	有効分げつ期 無効分げつ期	稲体組織充実期 幼穂形成期 穂ばらみ期	登 熟 期	収穫期	土づくり
水 管 理	浅水代かき	湛水管理 飽水管理	浅水管理 (本葉1葉期) 溝切り、中干し	間断かん水 飽水管理	湛水管理 間断かん水		
栽培管理のポイント	ほ場および種子の準備 ○播種前には必ずコーティング種子の発芽率を確認する。 ○コーティングの翌日以降は、水の噴霧と攪拌で酸化を促進させる。 ○コーティング種子はすぐに薄く広げ酸化・乾燥させる。 ○FS剤を使用する場合は、使用量を遵守する。 ○浸種積算60℃の種子に鉄コーティングする。 ○ほ場内の高低差を直しておく。 安定した苗立ちの確保 ○イネ1.5～2.0葉期に2回目の除草剤を散布する。 適正な中干しの徹底 ○中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 ○茎数が少ないほ場では中干しを遅らせる。 ○中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分げつを抑制する。 ○中干しは溝切後直ちに開始する。 いもち病・紋枯病防除の徹底 ○畦畔・農道の草刈りを徹底する。 ○紋枯病が発生した場合は直ちに防除を行う。 ○FS剤を使用していない場合は、6月20日頃までにオリブライトを散布する。 適切な葉色に誘導する ○幼穂形成期の葉色は4.0程度に誘導する。 病害虫防除の徹底 ○穂揃期は4.5程度の葉色を目標とする。 ○出穂7日前の葉色が4.2以下の場合には直ちに追肥を11kg/10a施用する。 ○幼穂形成期以降は飽水管理を行う。 稲体の活力維持 ○基本防除を徹底する。 落水之急がない ○の湛水管理を徹底する。 ○胴割米の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間 籾の黄化率85～90%程度が刈取適期 ○刈取適期表示を目安に刈取を行い、刈遅れのないようにする。 ※ただしほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ○刈取り予定日の5～7日前までは間断かん水する。 ○フェーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。 地力増強に努める ○雑草が多かったほ場では、刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ○稲わらの腐熟を促進させるため秋耕を行い必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10a当り100kg以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施。						